

2020年  
7,8月号  
No.0095

カトリック笹丘教会  
**教会ニュース**

福岡市中央区笹丘1-16-1  
Tel.761-4504 - fax761-4524  
広報委員会

## 聖母の被昇天



Y.Y



今年も、私達は平和旬間を迎えました。例年であれば、各地で様々な行事が行われますが、今年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ひっそりとしております。現代の今の状況において、私達は平和をどのように捉え実践して行けば良いのでしょうか。

私達の教会の保護の聖人、聖アウグスチヌスは、平和を、「秩序の静けさ」と定義しております。聖アウグスチヌスは、また、「愛の秩序」という言葉も用いております。愛の秩序、それは、一人の律法学者が、イエス様に、あらゆる掟の中で、どれが第一か尋ね、それにイエス様がお答えになった答の中に見出せるものです。イエス様は、この質問に対して、第一に、「あなたの神である主を愛しなさい」と言われ、第二に、「隣人を自分のように愛しなさい」と仰いました（『新共同訳』マルコ 12 章 28~34 節参照）。

この秩序が保たれないと、どのようになるのでしょうか。例えば、共産主義の創始者マルクスは、神よりも人を大切にする事が第一であると主張し、神なしのヒューマニズムを唱えました。その延長上線に、現代の中国があります。中国政府は、宗教をも自らの政治思想の下に置いています。神よりも自分たちが上なのです。それゆえ、いつも混沌と混乱があります。国の内外に混沌を振りまいているのです。

もう一つ、混乱を生じさせている信条があります。それは資本主義です。神よりも人よりも、経済を大切にする信条です。新型コロナウイルスの感染が拡大している世界の中で、人の命よりも経済を大切にしようという動きが高まっているような気がします。イエス様は、「人は誰も二人の主人に兼ね仕える事は出来ない。一方を憎んで他を愛するか、または一方に親しみ、他を疎んじるか、どちらかである。あなた方は神とマンモン（富）とに兼ね仕える事は出来ない」（『フランシスコ会訳』マタイ 6 章 24 節）と言われました。

私達は、このような混沌の状況の中にあっても、平和な心を保つ事が出来るように、恵みを願いましょう。マザーテレサは、仰いました。「沈黙の実りは祈り、祈りの実りは信仰、信仰の実りは愛、愛の実りは奉仕、奉仕の実りは平和」。混沌とした状況の中で、私たち一人一人が、平和を築く者となって行くことが出来ますよう、恵みを願いましょう。



## 役員会から



規約を生かし、育てていきましょう

信徒会長 川原義広

笹丘教会はあと一年少して創立 60 周年を迎えます。これまでの歩みを支えてこられた先輩諸氏の皆さんに感謝いたします。

人の集まりにはルール、決まり、規則があるものですが、笹丘教会にはこれまでそのようなものがありませんでした。必要性を感じないで来られたのもそれぞれが奉仕の精神のもと、その役割を自主的に果たしてこられたからだと思います。もしかしたら、お互いには暗黙の了解ごと、取り決めごとがあったかもしれません。しかし、教会のメンバーも少しずつ変わります、活動に参加していただく仲間作りに取り組むことも必要です。転入されてきた方、洗礼を受け新しく共同体の仲間入りをされた方、そういう方々も教会活動に参加していただく必要があります。そのためにはこの教会がどういう組織のもとで動いているのか理解していただくことが肝要です。そこで、昨年从小教区の在り方の見える化の一環で「小教区運営規約」の検討が始まりました。役員会で規約(案)を作成し、小教区のみなさんへのアンケートの実施、数度の拡大信者会での討議、それ等を受けての役員会での検討を経て 2020 年度信者会総会に最終的な「カトリック笹丘教会信者会運営規約(案)」が提案され、7 月 12 日の信者総会で総会参加者全員の総意のもと「カトリック笹丘教会信者会運営規約」が成立しました。当日の参加者と委任状提出を含めると実に 150 名の方々が賛同してくださいました。規約の制定は小教区始まって以来のことです。今後はこの規約を全員で活かし育てていきましょう。

今回の規約の特徴はふたつあります。まず一つ目は規約第 4 条 2(2)の役員選出の方法です。従来の役員による一本釣り方式ではなく、みんなで話し合っ選びます。二つ目は規約第 4 条 4 の委員会と委員長会です。これは従来の一人一役を発展解消し、希望者は各々委員会に属して教会の運営に参加することです。主任司祭のもと、委員会の長と役員との会議(仮称:小教区教会委員会)で小教区の運営について検討していきます。多くの方々の参加のもと教会の運営を行うこととなります。傍観者ではなく、それぞれが共同体の一員として出来ることで役割を果たしていきましょう。規約が生きていくようようご協力をお願いします。

(2020.7.25)

## カトリック笹丘教会 信者会総会議事録

開催日時：2020年7月12日（日）11：10～12：30

開催場所：カトリック笹丘教会聖堂

進行：川原義広

議長：辻部大介

書記：牧山幸二

始めの祈り 豪雨災害被災者のため アヴェマリアの祈り

### 1. 主任司祭挨拶（遠山神父）

今年は新型コロナウイルスの影響で予定が立てにくい状況にあるが、この状況の中で何が出来るかについて思いを巡らせて欲しい。

### 2. 議長選出

立候補なし。推薦により辻部大介さんが選出され承認された。

出席者数 38 名、欠席届（議長委任状）112 名との報告あり。

### 3. 議案審議

#### （1）2019 年度活動報告

小教区（川原会長）、コーヒーコーナー（青年会松尾さん）、福岡地区信徒協・納骨堂管理委員（畠山さん）、福岡地区女性の会（川原圭子さん）の活動状況が、資料に基づき報告され承認された。

#### （2）2019 年度会計報告及び監査報告

会計担当田川さんより資料に基づき報告され、細川さんより監査報告がされ承認された。

#### （3）2020 年度活動方針、行事計画

①川原会長より資料に基づき説明され承認された。

②クリスマスバザーについては手芸の会メンバーを中心として話し合っ  
て決めることになった。

③1月24日に1・2年生合同の初聖体が予定されているとの報告あり。  
（教会学校小浜さん）

④8月に洗礼式が予定されているとの報告あり。（遠山神父）

質問：①アベイヤ司教着座を祝う予定は？ → 現時点では予定されていない。

②神学院祭はあるのか？ → 例年通りの集いは無い。動画で配信される  
予定。

(4) 2020年度予算(案)

会計担当田川さんより、資料に基づき説明され承認された。

質問：役員活動費を廃止した理由は？ → 役員活動費が報酬と捉えられる懸念があるため、役員活動に必要な交通費の補助という認識を持ってもらえるようにした。

(5) 小教区運営規約

読み合わせを行った後質疑を行い承認された。

質疑内容

①第4条1. 総会(2)において総会での審議事項が規定されているが、このままでは審議できる事項が限定されてしまうので「その他役員会で必要と認めた事項について」という文言を追加してはどうかとの意見があったので採用したい。

②役員の選出方法はいつから適用されるのか？ → 2021年度役員からと考えている。

③役員の任期はリセットされるのか？ → 2021年度からの新たなスタートとなる。

④委員会の委員長は決まっているのか？ → 決まっていない。各委員会で話し合う必要がある。

⑤この規約は何かを参考にしたのか？ → 多方面の教会の規約を参考とした。

議長はここで解任

4. 2019年度維持費会計報告

維持費会計担当細川さんより資料に基づき報告がなされ、田川さんより監査報告がされた。

5. 2020年度役員について

規約に基づく新役員選出を2020年度(今年度)中に行う事になるので、今年度は役員全員が留任することになるとの説明が川原会長よりあり承認された。

6. 新型コロナウイルスの影響や豪雨災害等で心が病んでいる方もおられると思うが、教会が安らぎの場となるようにしていきたい。(川原会長より)

7. 意見その他

- ・新型コロナウイルス感染対策のために役員は頑張っているのですが、役員任せでなく、私たちもできることは協力していきましょう。

終わりの祈り 主の祈り

以上



今回は、教会の事務を担ってくださっています  
テレジア 伊藤まり子さんにインタビューをいたしました —



- Q. 「浦上四番崩れ」の子孫だとお伺いしていますが、どのように伝え聞いていますか
- A. 禁教令が出されていた当時、母の曾祖母の岩永カチ、と従妹の河内ノイさんが、津和野に流されたと聞いています。明治になり禁教令が解かれて浦上に戻されたそうです。具体的なことは聞いていませんが、命がけで守り通して、棄てなかった、先達たちが残して下さった信仰の功德に感謝し、敬意を表したいと思います。
- Q. 子供時代について聞かせてください
- A. 私は幼児洗礼です。9人兄弟（11人のうち2人亡くなっています）の4番目で長女です。小学1年生の夏に、初聖体を受けました。原爆によって破壊された浦上天主堂の残骸が残るその脇に建てられた仮聖堂に、その年の夏休みに初聖体を受ける子供たちが、地区ごとに班を作って座らされ、初聖体のための教え（稽古）を受けました。それは1週間位、毎日お弁当持参で朝から午後迄みっちり教え込まれました。最後の日には初告解をして、翌日の御ミサで初聖体を拝領しました。女の子は初聖体の時に買って貰う可愛い巾着の手提げ袋の中にボール（その頃は「おい」と言っていた「被い（おおい）」が訛った言い方？）を入れてごミサに行く。それが当時の流行りだったように思います。幼心にボールと手提げ袋が嬉しかったのを覚えています。その時からが信者としてのスタートでしょうか。
- 昭和34年頃、浦上教会の信者がふえた為、新しくできた西町教会（神言会）に移りました。こちらも当時は米軍の払い下げだった？板付けかまぼこを巨大にしたような形をしていて「かまぼこ兵舎」と言われていた仮聖堂でしたが、後からは鉄筋コンクリート建てで徐々に新聖堂、幼稚園、小学校と増改築されて行きました。小学6年で堅信の秘跡を、当時、山口愛次郎大司教様から授けて頂きました。堅信の勉強の最後はテストがありましたね。子供の頃はほぼ、カテキスタの川崎先生に教わりました。写真と書道が趣味で、私が、初めて強く感じ入ったみ言葉『天地は過ぎ去る。しかし、私の言葉は決して過ぎ去ることはない。（マタイ 24・35）』を色紙に書いて頂き今も持っています。結婚式の時の写真も沢山撮って下さいました。今は亡き川崎先生は、子どもの時の稽古時代の思い出と重なり懐かしく、私に信仰を教え導いて下さった恩人。感謝しています。

家庭では、子供の頃は、毎日家族揃って朝晩の祈りをしていました。父や母が先上げ（先唱）をして、子供が答えて言うのですが、中には声を出してお祈りを言わない兄弟もいたりして注意すると喧嘩になったり、晩の祈りの時は居眠りしてひっくり返ったり。親は祈りを全部覚えていて、母は下の子をおんぶして、家事をしながら先上げをしたりしていました。子供にとっては、難しい言葉や言い回し（文語体なので）などなかなか言いにくいところがあり、何度も練習してスラスラと言えるように練習したりしていたのを覚えています。四旬節の黙想会は毎年1週間昼の部と夜の部に分かれてありました。

黙想会に与った家族の顔は何か違っていたのを感じていました。今思えば聖霊に満たされていた？のかなと思います。又、8月9日の長崎の原爆記念日には、たいまつ行列に参加しました。平和公園で原爆犠牲者や戦没者のために祈りを捧げてからたいまつに灯を灯し出発、浦上天主堂までロザリオの祈りやあめのきさきの聖歌を歌いながら行列して教会に着いたら終わりの祈りをして解散です。夏休みは、教会学校から郊外に2泊3日の黙想会や、海水浴に行ったり、レクリエーションは楽しかった思い出です。12月になると、教会では、馬小屋が作られ、子どもたちのクリスマスの準備としてイエス様の馬草桶の藁をお祈りの1本1本でふかふかにしましょうと皆でがんばりました。子供（小学生）時代、このような感じだったと思います。

Q. 笹丘教会へ来られたのはいつ頃ですか

A. 笹丘教会へ来たのは、昭和53年、夫の転勤で愛知県から福岡にきました。その年の3月に2番目の子の出産のために、暫く、長崎に里帰りしていました。福岡に戻って、最初は大名町教会しか知らなかったのですが、そちらに転入しましたが、後で笹丘教会の存在を知り、自宅から近い笹丘教会に転入しました。当時、マホニ神父様が電話に出られて「歓迎しますよ」と言って下さったのを覚えています。

Q. 事務のお仕事はいつ頃からされているのですか

A. 1998年からです。私のような小さな者を起用して下さったことを有り難く思っています。当時は、教会のお仕事がどのようなものかをよく知りませんでしたので、深く考えずに引き受けました。今思えば、私のようなものが・・・と、申し訳ない気持ちです。ですが、信者として教会のお仕事をさせて頂くのは信者冥利に尽きると思いますか、喜びであり尊いお仕事をさせて頂いていると光栄に思い感謝しています。このような私ですので、いろいろとご不満を感じておられるかもしれませんがどうか、お赦しを・・・。



Q. この様な先祖代々から受け継がれてきたカトリックの信仰に使命感はありますか

A. そうですね、あまり意識したことはありませんでしたが、もし与えられた使命があるとすれば、命がけで守り通して受け継がれてきた信仰ですので、守り通し、絶やしてはいけないと思います。

Q. 最後に、次の世代へ伝えていきたいことは

A. 信仰を受け継ぎ、守り続けて欲しいという事でしょうか。どのように時代が変わろうと、世間の風潮に呑まれることなく、流されないように、揺るぎない信仰を持ち続けて欲しいと思っています。唯一の神様を求め、よく知って欲しいです。その神様があなたたちのことをとっても愛してくださっているということも知っていて欲しいです。

結局、先祖が遺してくれた信仰は、『亡びぬもの』であり『天地は過ぎ去る。しかし、私の言葉は決して過ぎ去ることはない。』（マタイ 24・35）を実感するところです。

お時間頂きまして、ありがとうございました。

その他、興味深いお話をたくさん伺いました。（広報委員）

— 参考 —



浦上四番崩れ 150 年展 2023 年 3 月 31 日まで

浦上キリシタン資料館にて 長崎県営バス 浦上天主堂前徒歩 1 分

浦上四番崩れは慶応4  
(1868)年の「五榜の掲示」の  
第三札キリスト教の禁止の高札  
に始まり、明治6(1873)年の  
その撤去によって終わった。そ  
の間、浦上信徒は全国22か所  
に流されて、厳しい拷問のもと  
改宗をせまられた。  
配流された3394名のうち  
613名が命を落とした。生き  
残って浦上に帰った人びとはこ  
のことを「旅」とよび、信仰の礎  
として記念した。



写真は津和野に流されていた信徒が帰郷して1930年に浦上天主堂の前で記念撮影をしたものです。

浦上キリシタン資料館のチラシ  
Tel.Fax.095-807-5646





# 「レジオマリエ」をご存じですか？



## 第11回

ミサ再開となって、早や2ヶ月が経とうとしています。3月以前と同じような活動がすべてできるようになったわけではありませんが、教会に集い、ミサに与ることができるようになったことは、コロナ禍の中で再発見されたいくつかの喜びの中でも一番大きなものではないかと思えます。一方で、大幅な減収、仕事を失ったりと、生活が困窮する人たちも少なくなく、追い打ちをかけるような7月初旬からの大雨による水害、第2波を予感させるような各地での感染者数の増加など、不安や心配は尽きませんが、これまで以上に心を込めて、お祈りしていきたいと思えます。

レジオ・マリエも、7月から活動を再開させることになり、感染拡大させないために、毎週行うことになっている集会は月2回程度、1時間半ほどかかるころをロザリオの祈りを30～45分程度の時間内で行うようにいたしました。もちろん、入室前に手指の消毒、座る時は1人分空けてと、ソーシャルディスタンスをしっかりとることも忘れません。集会後は、掃除・消毒も…。残念ながら、私自身は参加できなかったのですが、皆さんしっかりやってくださいました。久しぶりの集会後、お互い顔を見て、共にロザリオの祈りをすることができて本当に嬉しかった、と皆さんおっしゃっていました。これからも感染拡大の状況によっては、集まることができなくなることがあるかもしれませんが、ミサ再開後の初めての集会は、私たちレジオ会員にとって、コロナ禍の中での大きな喜びと励みになりました。

さて、来る8月15日「聖母の被昇天」の大祝日をお迎えします。今回も、松永司教様のご著書の中から、心に響いた箇所を紹介させていただきます。

聖母マリアは、この地上での生涯の日数が終わったのち、神のお恵みによって、霊肉共に天の栄光に引き上げられました。…(略)…聖母マリアは、私たちの間において、最も優れてキリストの救いに与ったお方でした。そしていま、被昇天という特別のお恵みによって霊肉共に天の栄光に上げられています。実にマリアにおいて、キリスト者の姿は全き完成に達したのです。これが聖母被昇天の意味なのであります。

被昇天のお恵みによって、人間の救いはマリアにおいて完成したことになります。そして私たちすべては、このマリアとのつながりの中で、マリアをモデルにして救いに与ることになったのです。この意味で、キリストのご昇天とマリアの被昇天との間には深いつながりがあります。救い主キリストにおいて、私たちの人間性は御父のもとに帰りました。いとも優れて救いに与ったマリアの被昇天によって、一キリスト者が人間性のすべての要素と共に、御父のもとに帰りました。このあとは、キリスト者である私たちが、マリアをモデルとして、マリアの助けのもとで、キリストにつながり御父の光栄に与ることだけが残されているだけです。聖母の被昇天は、私たちにこの救いの完成の姿を明らかにしているのであり、これによってマリアは、私たちの救いの完成のための力強い代祷者となられたのであります。

実に聖母被昇天は、単に特別の恩典ではなく、キリストの救いの神秘に密接につながるすばらしい神秘なのであります。(松永久次郎著「ロザリオのこころ」より)

(2020.7.22 マグダラの聖マリアの祝日に)



ミカエル 池田<sup>ゆうき</sup>裕輝神学生



6月から笹丘教会に司牧実習にみえました。  
福岡カトリック神学院哲学科2年生です。  
皆でお祈りし、成長を見守りましょう！！

Q.神学の道に進まれたきっかけを教えてください

A. 忘れてしまいました。(冗談や答えたくないとかではないです。本当に。)心を揺さぶられるような強烈な体験があったのだろうと思うのですが。すみません。

環境として恵まれていたからかもしれません。長崎県大村市の植松教会に通っていました。実家が教会から徒歩3分のところにあつたので平日の朝ミサの侍者などによく駆りだされていました。

Q.ご自分ではどのようなタイプだと思われませんか

A. どんなことでも楽しめるタイプです。一般的に辛いことや苦しいことも楽しい方向に捉え直して楽しんでいます。

Q.昨年の神学院祭では何を担当していらっしゃいましたか

A. お菓子部としてパウンドケーキやマドレーヌを神学院祭前日まで作っていました。来年度の神学院祭のためにレパートリーを増やしている最中です。

Q.神学校の生活で一番大変に思うことはありますか

A. 大変なことはないです。捉え方を変えれば何でも楽しくなるので。得な性格ですね

Q.好きな聖人はいますか

A. マザー・テレサ(コルカタの聖テレサ)です。

彼女の目の前の人一人ひとりに真摯に向き合う姿勢はとても参考になります。

Q.笹丘教会の印象は何かありますか

A. 司祭と信徒、信徒同士の距離が近く、家庭的な温かみを感じる教会だと思います。コロナ禍が過ぎ去った後また新しい一面を見られることが楽しみです。どうぞよろしくお願いたします！！

## お知らせ 「教会ニュース」のネーミング、大募集！！

2011年9月の献堂から新たな広報委員を結成して発行された「教会ニュース」は、発行回数を見直しとともに「教会ニュース」という名称を親しみやすいネーミンに変えることといたしました。皆様から笹丘教会広報紙にふさわしいネーミングを募集いたします。添付されている応募用紙にご記入の上、教会入り口に置いてある「教会ニュース ネーミング応募箱」に入れてください。決まり次第変更いたします。9月6日(日)に締め切ります。(広報委員会)